

鉄の轍

涙雨 帰らぬ日々に 花束を

通過列車に 花びらが散る

磐越の 寒風切り裂き 暖を繋げ

大地の怒りも 止められはせず

窓枠に 切符ひとひら カップ酒

汽笛一声 旅立ちの夜

雪の夜 迫る閃光 王子様

柱の陰で サンタは微笑む

生き急ぐ 乗客はみな 青ざめて

「駆け込み乗車はおやめください」

終電後 ホームに降り立つ 守護神

扉となり 壁となり

闇を抜け 陽の真下には 青々と

隣の席には 瀬戸の花嫁

凍てる山 連なる客車も 真白に

手を取り進め スワローエンゼル

南風 こまち

最果ての 北の鉄路に 汽車はなく

流され果てて ただ眠るのみ

路線図を 見上げる片手に サイコロを

赤い目が出て 行かず、東北

いざ行かん 神をも追い越す ハイライト

走れひかりのちようとつきゆう

旅の窓 読み進めては 移りゆく

ページはなくとも 旅のお供に

崩れゆく 時刻表にも 解は無く

血濡れの指は から回るばかり

人あふれ 電車が来ない 帰り道

諦め着に のれんをくぐる

迫りくる 光に合わずは ファインダー

対向列車に 膝をつく

分岐点 別れる線路の その先に

何が待つのか いつか往く旅

帰り着く 故郷の駅は 変わりなく
待ち人微笑む 「おかえりなさい」